

令和6年度6月補正予算 記者発表

石川県

令和6年5月21日

当初予算

能登半島地震への対応を最優先に、新規事業は必要最小限に限定
➤ 「骨格的な予算」として編成

6月補正予算

- 能登半島地震からの復旧・復興を柱に、
当初予算以降の状況を踏まえ、必要な対策を計上
- 石川県成長戦略の実現に向け、新規施策を可能な限り計上
- 大規模プロジェクトは施設の老朽化など緊急度の高い事業を進める

液状化被害を受けた宅地の復旧・住宅の傾斜修復等への支援



- 液状化等により被害を受けた宅地や住宅の復旧のため、所有者が実施する、**宅地の復旧や住宅の耐震化**を支援する**補助制度**を創設

宅地

〔新設〕被災宅地等復旧支援事業

| | | | |
|------|---|------------|-------------------------------|
| 補助額 | 補助額：最大766万円 (補助対象:上限1,200万円) | | |
| | 県 (→基金) 2/3 | 所有者 1/3 | 50万円 熊本地震の1.2倍 ※物価高騰を考慮 |
| 補助内容 | 擁壁、地盤、宅地のり面等の復旧、住宅の地盤改良、 傾斜修復 など (応急修理などの少額工事相当を控除) | | |

住宅

住宅耐震化促進事業

採択枠 〔耐震診断〕当初:200件→300件 (+100件)
 拡充 〔耐震改修〕当初:100件→200件 (+100件)

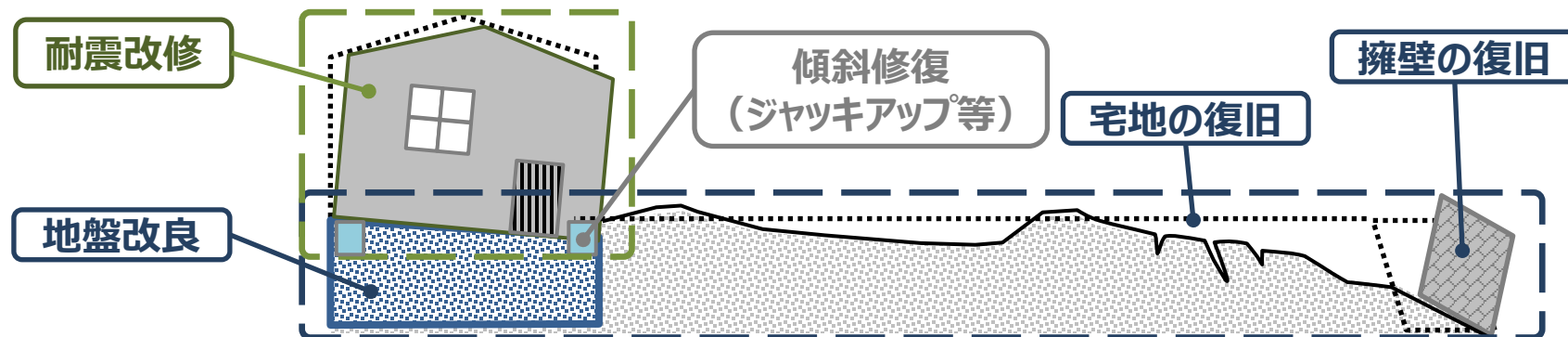
定額補助：最大150万円

| | | | |
|----------------------|-----------|-----------|--------------|
| 国 60万円 | 県 45万円 | 市 45万円 | 全国トップクラスの補助額 |
| (耐震診断により耐震性がない住宅が対象) | | | |

〔新〕地震で耐震性が低下した住宅の耐震改修、**傾斜修復**

〔注〕傾斜修復は、「被災宅地等復旧支援事業」及び「住宅耐震化促進事業」の対象となっているが、いずれかの補助を選択（両方の併用不可）

対象範囲
(イメージ)

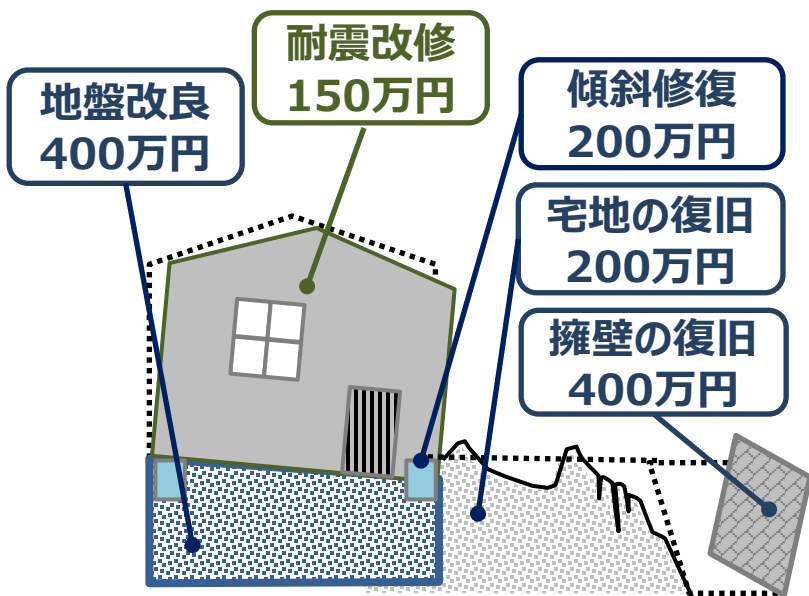


宅地復旧・住宅の傾斜修復への支援のモデルケース



事例 1

宅地の復旧と住宅の耐震化を行う場合
(傾斜修復はいずれかの補助を選択可)

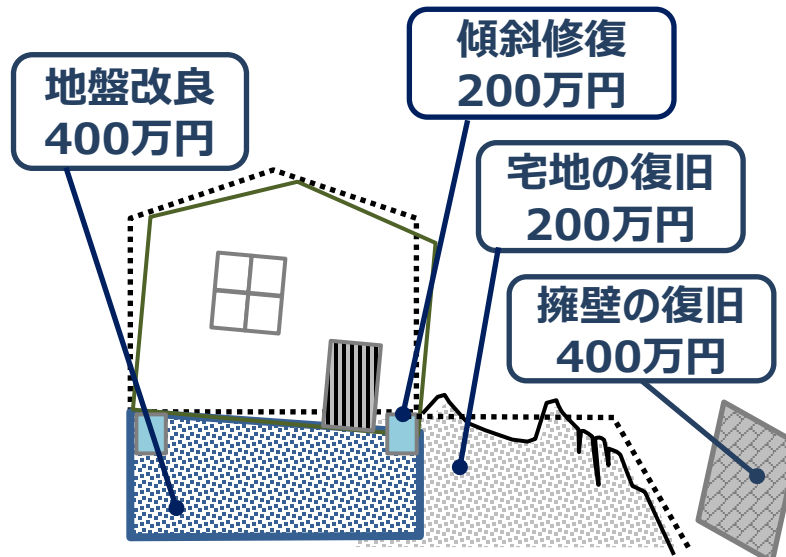


対象事業費：1,350万円

| | |
|-----|------------|
| 補助額 | 宅地復旧：766万円 |
| | 耐震改修：150万円 |
| | 計：916万円 |

事例 2

住宅が全壊し、住宅再建とあわせて
宅地復旧を行う場合
(耐震改修は実施しない)

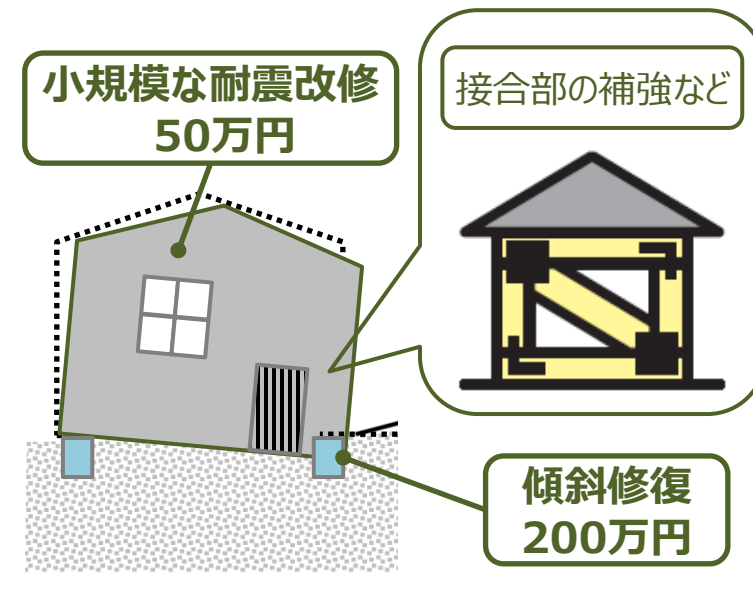


対象事業費：1,200万円

| | |
|-----|------------|
| 補助額 | 宅地復旧：766万円 |
| | |
| | 計：766万円 |

事例 3

小規模な耐震改修にあわせ
傾斜修復を行う場合



対象事業費：250万円

| | |
|-----|------------|
| 補助額 | |
| | 耐震改修：150万円 |
| | 計：150万円 |

宅内配管の修繕工事の促進

- 断水の解消後も、宅内配管の修繕工事の順番待ちなどが課題となっていることから、**修繕工事の加速化に向けた取り組み**を実施

① 地元以外の工事業者が修繕工事を行う場合の掛かり増し経費に対する補助

対象：6市町（輪島市、珠洲市、能登町、穴水町、七尾市、志賀町）の宅内配管の修繕を行うお住まいの市町以外の工事業者

※掛かり増し経費（燃料費・人件費・宿泊費）については、**県が直接、工事業者に補助**するため、**住民の負担はありません**

② 宅内配管の修繕に関する受付窓口の設置（5月13日～）

お住まいの市町以外の工事業者を手配します。

受付
窓口

石川県管工事業協同組合連合会事務局内

電話番号 0120-055-122（フリーダイヤル）

受付URL <https://i-kankouji.form.kintoneapp.com/public/noto-plumbing-repair-request>

受付期間 令和6年5月13日～7月31日 9:00～17:00（土日・祝日除く）



問合せ先

石川県生活環境部環境政策課

電話番号 076-225-1463

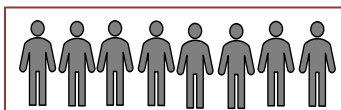
メール haikan-hojo@pref.ishikawa.lg.jp



市町や専門機関と連携した被災者への各種支援

被災者の所在

発災後～これまで
避難所がメイン



1 箇所に複数人で過ごす

災害派遣チームが中心となり対応

今後

自宅帰還、仮設住宅への入居が本格化



自宅・仮設住宅で個人で過ごす

周囲の目が届きにくくなることによる**被災者の孤立**、
生活環境の変化による**心身の不調が懸念**

見守り・状況把握

仮設住宅入居者、
在宅の高齢者・障害者
等への個別訪問

各市町や県において、
社会福祉協議会、
専門ボランティア団体
等により実施

個別訪問の情報集約

被災者
データベース
を活用

要支援者等を把握

必要な支援につなぐ

個々の被災者に必要な支援をきめ細かく提供

生活環境変化に
伴うメンタル不調

被災者のこころのケア

精神科医・保健師等による訪問相談等

運動量低下による
要介護化

介護予防・悪化防止

リハビリ専門職による集会所等での介護予防活動等

栄養バランスの乱れ
による健康状態悪化

栄養・食生活支援等

栄養士等による栄養指導や食生活改善サポート

仮設住宅等における通所・在宅サービスの拠点整備を支援

食事・入浴等を提供するデイサービスや総合相談支援を包括的に提供

⇒ 要支援者以外も利用できるようにすることでコミュニティづくりの拠点に

被害が甚大な6市町の**被災者台帳の作成**を支援するため**被災者データベースを構築・運用**

市町のニーズを踏まえ、**機能を充実・強化** + 「**能登モデル**」として**全国展開**を目指す

被災者データベース

6市町の人口約124,700人のうち

94,128人を登録 (登録率75.4%、5/7時点)

- **最新の居所情報の把握**
 - ・県義援金給付や2次避難所情報から最新の居所を捕捉
- **在宅高齢者等の孤立化の防止**
 - ・個別訪問記録をデータ化し、関係者で共有

機能の充実

- **様々な支援(給付金等)の状況を一人ひとり確認可能に**

能登モデルとして全国展開

- **検証・検討**
 - 国や県内市町に有識者や他自治体も加えたワーキンググループを設置
- **標準モデルを構築し、全国に展開**

能登の祭りの再開支援

能登に暮らす人々の絆であり、地域に人々が集う機会でもある「祭り」の再開を支援することで、**地域コミュニティの再建、能登の復興**につなげる

(基金規模を200億円に拡充する「**いしかわ県民文化振興基金**」を活用)

制度概要

【対象】 輪島市・珠洲市・穴水町・能登町・七尾市・志賀町を中心とした、能登半島地震により被災したエリアの祭り

【対象経費】 **準備経費** ※社寺の修繕は除く
(祭りの用具等修理・新調、祭りの開催の
気運醸成に向けたシンポジウム・交流会 等)

開催経費 ※供物料など神事に関する経費を除く
(消耗品費・資機材借上経費、外部協力者謝礼等、祭りPR経費 等)

【助成率】 **定額 (助成率10/10)**

【限度額】 **3年間で最大150万円**



(参考)H19能登半島地震における
祭り支援制度 (復興基金)

- ・助成率 3/4
- ・限度額 30万円
- ・助成期間 1年間

○長期的な人口減少に対応しながら、能登が復興を遂げるためにも、
地域に多様な形で関わる「関係人口」の創出を図ることが重要

<これまでの取組>

- ・**県内大学と連携し、豊かな自然や文化などを活かしたフィールドワークや学生の祭りへの参加を促進**



【県内大学との連携拡大】
能登の復興や**災害対応**の
取り組みの**支援枠を拡大**

県外大学にも拡大

(就職支援協定、包括連携協定締結校など)

関係人口の創出を図るため

- ・学生に地域での学びの機会を提供する「いしかわサテライトキャンパス」を推進
- ・**能登の被災地**においては、
復旧・復興に寄与する形で学生ボランティアと地域住民等との交流を促進

「能登官民連携復興センター（仮称）」の設立準備

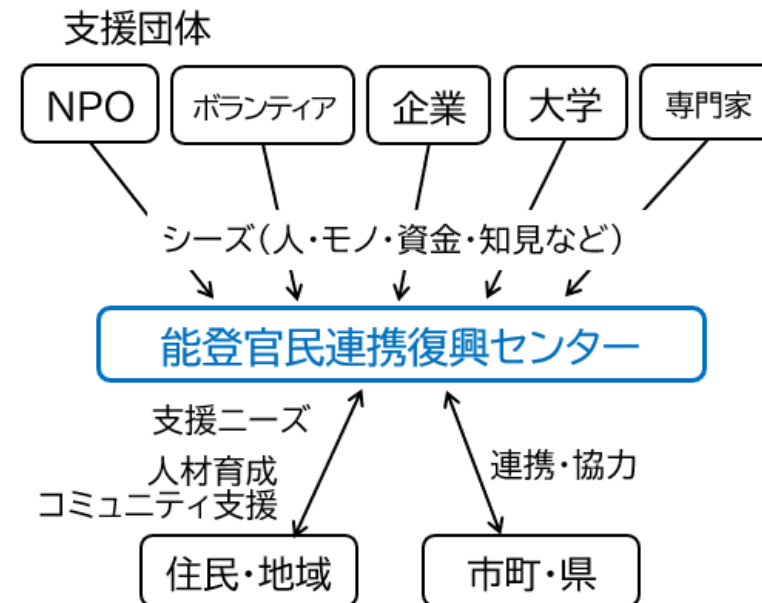
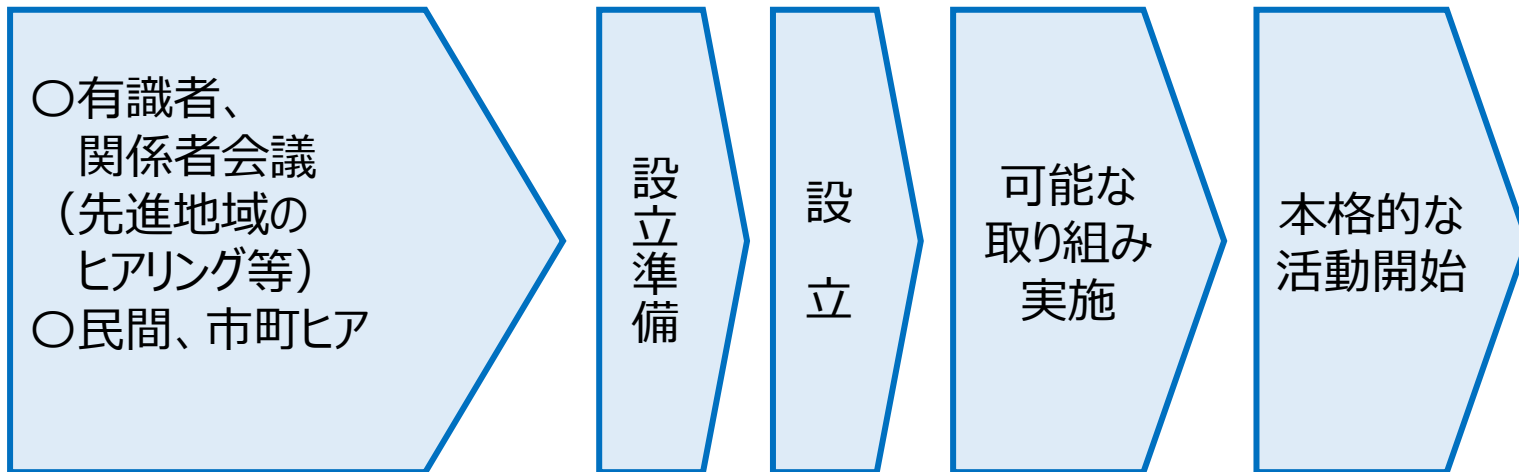


- NPOやボランティア、企業、大学といった多くの支援団体が能登で支援活動を実施
- 今後、被災者が地元に戻っていく中で、**支援ニーズがさらに多様化していくことが予想**される

官民連携の組織「能登官民連携復興センター（仮称）」を設立

- ・被災者の支援ニーズを把握し、支援シーズを持つ団体とのマッチング
- ・被災地の情報発信、外部の人材や資金の確保 など

<進め方のイメージ>



支援者の受け入れ環境整備

- **のと里山空港エリア**では、周囲に食事をとれる場所が少なく、利用者からは、**温かい食事をとれる場所を望む声**が届いている

被災した飲食事業者が運営

のと里山空港の第1駐車場の一角に仮設の飲食店舗を整備

※早ければ10月頃運用開始 【中小企業基盤整備機構の支援制度活用】



○今後、復旧工事や解体工事の本格化に伴い、**宿泊施設の不足が想定**される

今後活用されない可能性がある**古民家等を宿泊施設として活用**

補助概要

- 【対象地域】 奥能登 2 市 2 町（輪島市、珠洲市、穴水町、能登町）
- 【対象家屋】 被災した（一部損壊以上）8～10名程度が宿泊できる建物
- 【対象経費】 地震により損壊した建物の現状復旧費
- 【補助先】 宿泊運営事業者（宿泊施設の改修や運営等のノウハウを有する）
- 【補助金額】 **1棟あたり最大100万円**
- 【補助率】 **1/2**



古民家（イメージ）

**将来的には民泊や移住者の住まいなどへの活用も見込み、
まちづくりを見据えながら市町と連携して取り組む**



- 被災事業者の施設・設備の**本格的な復旧までには相当の期間を要する**見込み
⇒ 本復旧までの間の**早期の営業再開や事業継続を後押し**

早期営業再開に向けた 仮設施設整備に対する支援

- 【対象】 個社の仮店舗・仮作業場等の整備
- 【補助額】 **300万円**
- 【補助率】 小規模事業者 **2/3**
中小企業 **1/2**
- 【要件】 半壊以上 及び
地元での事業再建計画の提出

小規模事業者の事業継続に向けた 施設修繕等に対する支援の拡充

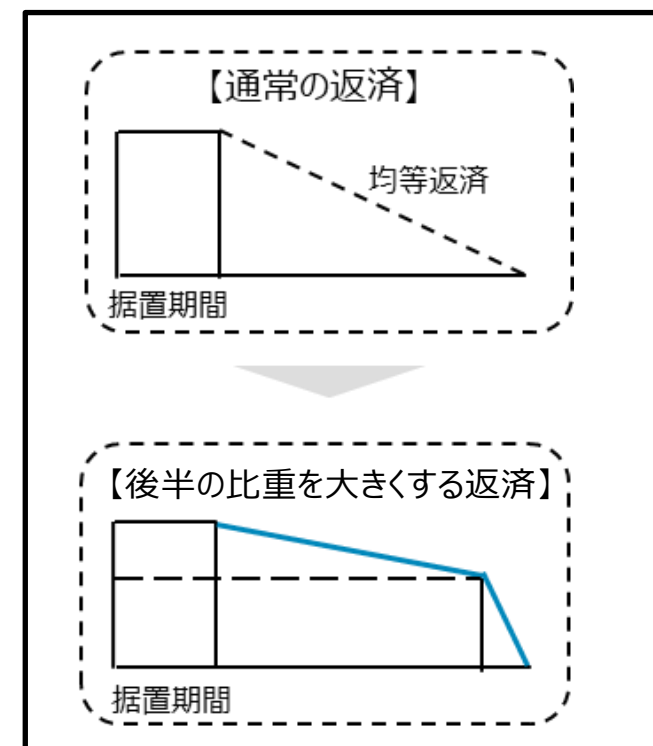
- 国の「持続化補助金」を**県独自に上乗せ**
- 【対象】 施設・設備の修繕等
- 【補助額】 国 200万円 **+ 県 100万円**
- 【補助率】 2/3

再建に長期間を要する被災事業者の資金繰り支援



- 小規模が多数を占める能登の事業者は、当面の収入が見込めない中で、既往債務の返済が厳しく、再建に向けた新たな借入も必要な状況
- より**長期かつ柔軟な返済を求める事業者ニーズに対応**するため、国の保証制度を活用し、「**返済開始当初は少額返済で返済後半の比重を大きくする返済**」も可能な融資制度を創設
融資期間 15年以内 低利 信用保証料免除 既往債務の借換に対応

| R6能登半島地震経営改善サポート融資 | |
|--------------------|---|
| 対象 | 七尾市以北6市町の事業者への新規融資、借換融資 |
| 資金用途 | 設備資金、運転資金 |
| 限度額 | 1億円 |
| 期間 | 15年以内（据置5年以内） ※返済期間後半の比重を大きくする返済方法も可能 |
| 利率 | 新規 1.20～1.70%以内 借換 1.85～2.10%以内 （県利子補給） |
| 保証料 | 免除（国・県保証料補助） |
| 融資枠 | 50億円 |





「応援消費おねがいプロジェクト」の更なる推進



様々な機会を通じて応援消費の機運を高めるため、
今後実施するフェア・イベントにおいて横断的に「応援消費おねがいプロジェクト」を展開

夏

秋

冬～春



復興フェア (東京・大阪・愛知・京都)



県外



7月開設の関西圏での新たな情報発信拠点



と連携したPR

北陸デスティネーションキャンペーン



復興応援情報発信【県内外】

能登各地の復興過程や誘客再開状況について
情報発信することで、今後の誘客につなげる



【既存のPR事業】

- ・石川フェア
- ・伝統工芸フェア



等

県内



【既存のPR事業】

- ・「ルビーロマン」・「加賀しずく」スイーツフェア
- ・百万石の極みフェア

等



**伝統的工芸品月間国民会議
全国大会及び食文化魅力発信イベント**

能登の料理人と連携して
能登の食・工芸を一体的に発信



復興フェア
(県内)



県内外でのメディアプロモーションの推進

- 今秋の**全国大会**において、**被災事業者による展示即売会**等を開催
- あわせて、**能登の食文化の魅力を集中的に発信するイベント**を開催し、**能登の復興を後押し**

In 金沢

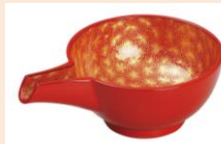
- 被災産地の伝統工芸事業者の展示即売会
(輪島塗、珠洲焼など)



- 被災産地の器や食材を使った特別メニューをホテルで提供



珠洲焼の皿×能登牛のステーキ



輪島塗の片口×能登の酒

In 七尾

- 能登の料理人を核とした、能登の食材・食品、工芸を一体的に発信するイベント

<実施イメージ>



能登の食・酒・工芸の
生産者による展示即売会



オール能登の地域資源
を使ったディナーの提供



能登の食文化の担い手
によるトークセミナー

- のとしま水族館は能登を代表する観光施設の一つであり、能登の復旧・復興に向けて、1日も早い再開を目指している。
- 施設・設備の復旧工事を進めるほか、一時的に他の施設で飼育していただいているペンギンなどの移送や、震災により喪失した生きものの確保など 営業再開に向けた準備を加速する。



本館「のと海遊回廊」



ペンギンのお散歩タイム

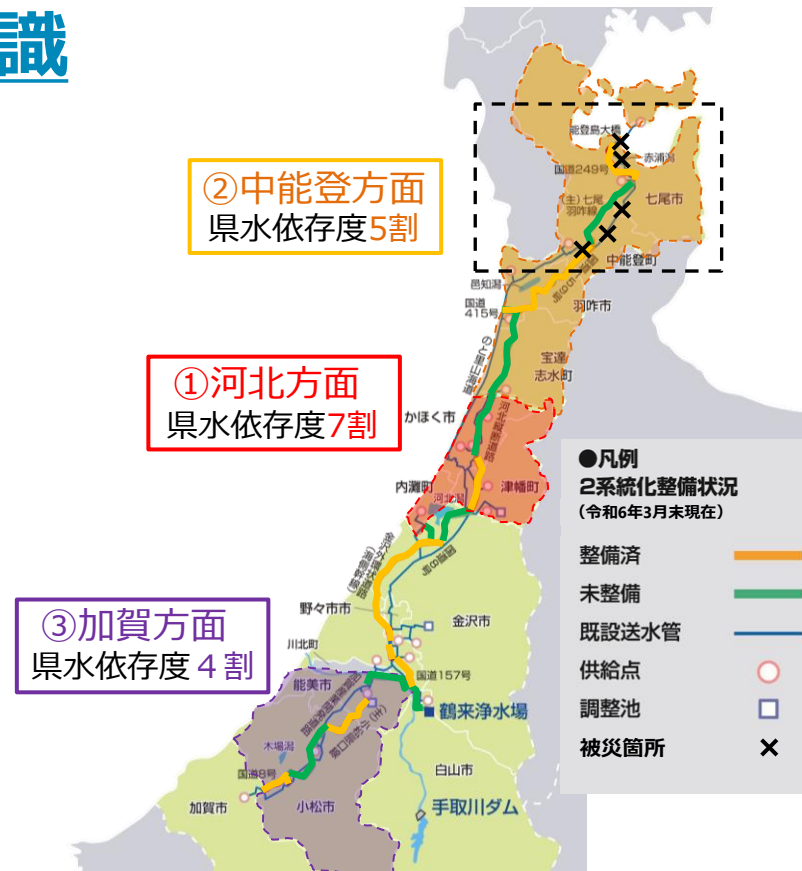
被災地の子どもたちのためにも、まずは準備の整った施設から、
夏休み前の営業再開を目指す

県水送水管の2系統化の前倒し

- 今回の地震で中能登町から七尾市にかけて被害が集中し、復旧に2カ月弱を要した
- 耐震化完了区間は被害がなく、耐震化の重要性を再認識



非耐震管の被災状況



整備計画を2年前倒しし、令和12年度までの完成を目指す

地震被害想定の見直し

○ 令和6年能登半島地震を受け、以下のとおり調査方針の見直しを行う。

現在の調査方針

○対象断層

- ・県内および隣県の10断層を選定

○想定シーン

(地震が発生する季節、時間帯、風速等)

- ・複数の季節と時間帯を設定

○想定項目

- ・40項目(可能な限り定量評価)

地震発生

今回の地震を踏まえた見直し

(R6.4.19 石川県防災会議震災対策部会了承)

今回の地震を踏まえた断層モデルを対象断層に追加

帰省客や観光客等が多い正月やゴールデンウィークを想定シーンに追加

介護福祉施設の機能支障や宅地の液状化、海岸施設被害を想定項目に追加

今年度末までに調査結果をとりまとめ、震災対策の充実強化を図る

<県内企業の課題・ニーズ>

○ デジタルシミュレーションの導入による迅速・効率的なものづくり

→ものづくりの現場では、製品ライフサイクルの短縮や顧客ニーズの多様化により、短期間・多品目の製品開発が必要

○ ロボットの導入による人手不足、生産性向上への対応

→ 人手不足が恒常化している中、高性能で低価格のロボット導入へのニーズが高まっている

○ 新たな成長市場「GX」への参入促進

→ 国を挙げてGXが加速する中、自社の省エネだけではなく、新たな成長市場であるグリーン分野への参入が求められる

「デジタル活用ものづくり支援センター」（工業試験場内）の開設（6月下旬）

DX推進

デジタルシミュレーションやロボット導入に向けた**人材育成**

GX推進

GXの最先端の研究成果の**普及啓発**

共同研究

県内企業と共同で、最新のデジタル技術を搭載した**製品開発を支援**

いしかわ県民文化振興基金の拡充

○国民文化祭の成果を一過性のものとせず、レガシーとして継承し、文化活動への県民総参加を一層推進するため、**基金規模を、現在の120億円から200億円に拡充**

本県文化の深化や裾野の拡大、新たな文化体験機会の創出、文化の力による被災地復興を後押し

能登の祭りの再開支援

開催経費や用具の修理・新調などに対して助成



市町・企業の文化活動への支援

市町や企業による文化イベントに対して助成



いしかわ舞台芸術祭(仮称)の開催

若者の関心が高いミュージカルを中心に観劇の魅力を発信



いしかわ秋の芸術祭(仮称)の開催

「ビエンナーレいしかわ秋の芸術祭」を隔年から毎年開催に拡充
文化団体の発表会や
子供の文化体験を充実

いしかわ障害者アート展(仮称)の開催

障害のある方の文化芸術活動の発表の場の充実



のと鉄道の経営の安定化

- のと鉄道は、**地域住民の生活の足だけではなく、観光の二次交通として、能登の復興には必要不可欠**
- 従来からの人口減少等に加え、今回の地震の影響により、**今後も経営は厳しい状況**が見込まれる



4/6 全線で運行を再開

基金の積み増し

- これまでも、県・沿線市町（七尾市・穴水町）が連携して、のと鉄道の安全運行に万全を期すための必要経費を基金に積み立て、支援（これまでH25～26とR1～3に積立(計14億円)）
- 基金残高が不足してきたことから、**沿線市町とともに、今後3年間で7億円を積み増し、引き続き、のと鉄道の安全運行・経営安定を支援**
（車両修繕費、安全運転管理者・運転士の人件費に基金から充当）
→ R6～8の3年間で7億円を積み増し
【県】544百万円：182百万円/年、【七尾】125百万円：42百万円/年、【穴水】31百万円：10百万円/年

金沢港を取り巻く環境の変化

コンテナ船の大型化

コンテナ船



能登半島地震で直面した新たな課題

港湾施設の強靱化

地震による被害



防災拠点としての役割

物資の輸送拠点として活用



港の目指すべき姿を描く「**将来ビジョン**」を今年3月に策定

ビジョンを実現するため、具体的な施設の規模や配置などを示した「**港湾計画**」を年度内に改訂し、令和7年度からの新たな事業展開を目指す

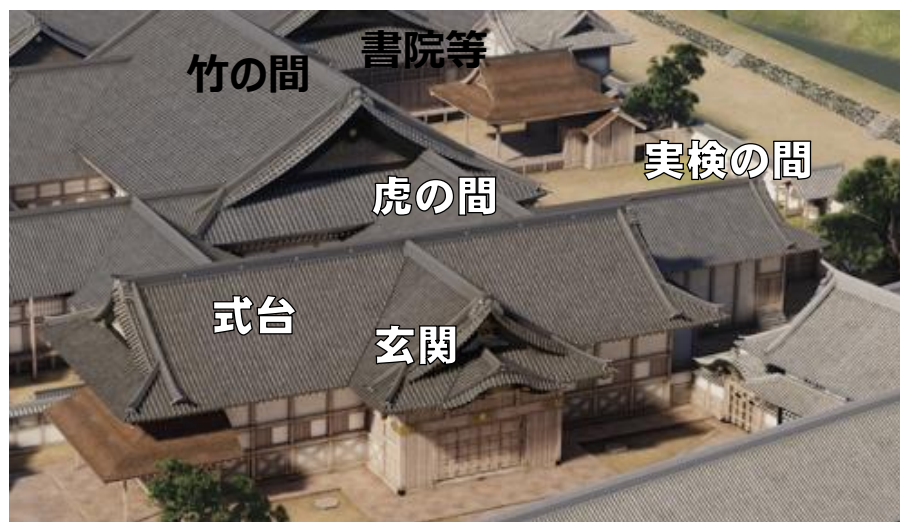
金沢城二の丸御殿の復元整備

史実を尊重した本物志向の復元整備に向けた取り組み

- ・御殿の建築設計、障壁画・欄間彫刻の再現に向けた検討
- ・国史跡における建造物の復元整備について、文化庁等との協議

➡ **今年度より復元整備工事に着手** (御殿建設に必要な設備・仮設等の準備工)

○金沢城の価値・魅力を格段に高めるとともに、伝統技術・伝統工芸の技術の継承
○石垣の復旧と合わせて、整備状況を発信し、文化観光の柱として賑わい創出と魅力向上



二の丸御殿「表向」主要部の復元イメージ



二の丸御殿内部「式台」の復元イメージ

木場潟公園東園地の未整備区域の調査・検討



令和5年4月
中核的なエリア
完成供用



里山交流ハウス
農業体験ハウス



里山資源再生
ハウス

R5.4月供用
5.3ha



未整備区域
11.1ha

体験学習プログラムを実施



課外学習や修学旅行生から
高い評価

南加賀地域の観光交流地点
として魅力向上を図るため、

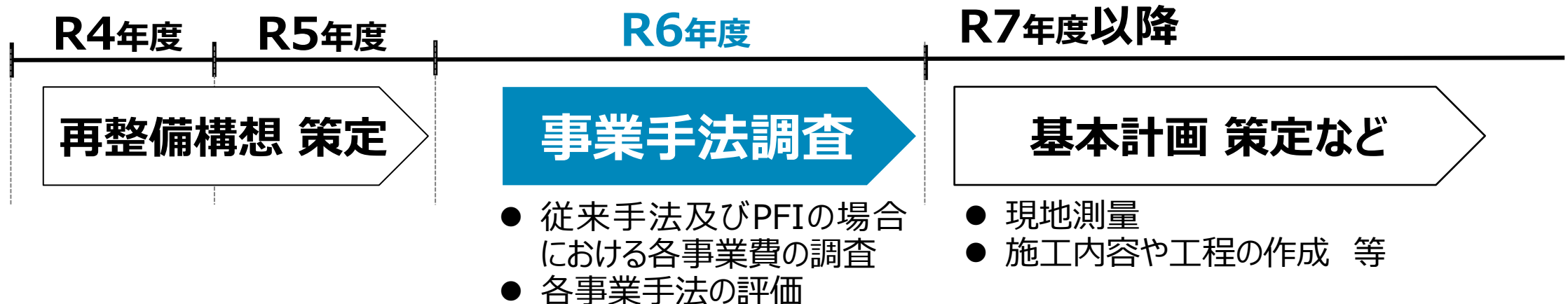
**未整備区域の
調査・検討に着手**

<東園地計画地16.4ha>

- 本年3月に再整備構想を策定・公表
- 極めて大きなプロジェクトであり、事業の進め方などについて更なる検討が必要

事業費の精査、事業手法の調査を実施

➡ 「基本計画」の策定などの着手時期は、地震からの復旧・復興に係る財政負担を十分見極めて判断



現状・課題

- 建物の老朽化（経年57年）、旧耐震基準の建物
- 施設の狭隘化（会議室・研修室や相談室、駐車場の不足）
- アクセスが悪い



狭く、暗い室内



相談室前に待合スペース
(プライバシー確保に課題)

これまでの検討状況

＜求められる機能＞ ※令和5年度『社会福祉会館の在り方検討委員会』報告結果
福祉への理解醸成、県民の相談対応、福祉人材育成、福祉活動促進、社会参加促進

社会福祉会館基本構想検討委員会（仮称）を設置し、基本構想を策定

＜新たな社会福祉会館イメージ＞



エントランスでの作品展示

明るい個別相談室

【検討内容】

- 施設の規模・配置・整備スケジュール等
- 能登半島地震の経験を踏まえ、福祉拠点としての防災機能強化
- ※中央児童相談所等検討WGも併せて開催

石川県社会福祉会館の移転整備



◎ 金沢西高校第2グラウンド

- ◆敷地面積 22,042㎡
- ◆構成 フィールドトラック
(サッカー、ソフトボールなど)
テニスコート、部室棟

◎ 第2グラウンド隣接県有地

- ◆敷地面積 3,122㎡

◎ 畝田用地

- ◆敷地面積 28,101㎡

社会福祉会館
移転整備予定地



現状・課題

- 建物の老朽化（経年54年）、旧耐震基準の建物
- 地震により建物に深刻な被害
- 求められる機能を十分に果たせない状況
 - プライバシーに配慮した相談環境が確保できない
 - 駐車スペースが不足



地震により建物が傾斜



玄関通路で相談対応

新庁舎の建設地

- 手狭な現在地から**能登空港周辺エリアへ移転**
- 奥能登各地域とのアクセスが向上
 - 十分な広さの県有地があり、建て替えが容易

各地からのアクセスイメージ



新庁舎に必要な機能・役割を検討し、基本計画を策定

※能登半島地震の経験を踏まえた機能強化を検討

- 復興プランでは**トキ放鳥の実現を震災からの創造的復興のシンボル**として位置づけ
- 早ければ令和8年度となる放鳥に向け、**市町や関係機関と連携し着実に取組を推進**

取組内容

○ 餌場環境の整備

モデル地区の取組(トキの餌場となる江・水張水田等の整備の支援)の横展開

○ トキとの共生に向けた理解の促進

子ども向け絵本の作成

親子でトキを学べる普及啓発イベント

○ トキをシンボルとした地域活性化

ワーキンググループを立ち上げ、ブランド化に向けた検討を実施



水田等の整備 (イメージ)



トキを楽しく学べるお話会 (イメージ)